

## 171 乾式母乳パック低温殺菌装置 milmo® により経母乳サイトメガロウイルス感染を予防できた超早産児の1例

### A case of an extremely preterm infant prevented from breast milk transmission of cytomegalovirus with the milmo®, a new water-free breast milk pasteurizer

昭和大学江東豊洲病院こどもセンター<sup>1)</sup>、昭和大学医学部小児科学講座<sup>2)</sup>  
白井まどか<sup>1)</sup>、寺田知正<sup>2)</sup>、古川和奈<sup>2)</sup>、江畑晶夫<sup>2)</sup>、長谷部義幸<sup>2)</sup>、宮沢篤生<sup>2)</sup>、水野克己<sup>2)</sup>

Madoka Shirai, Showa University Koto Toyosu Hospital

#### 【緒言】

後天性サイトメガロウイルス(CMV)感染症は母乳などを介して起こり、敗血症様症状などの重篤な症状を呈する。妊娠29週以降に胎盤を介して母親のCMV IgGが移行するため、それ以前に出生する早産児では後天性CMV感染症を起こす可能性がある。経母乳CMV感染を予防するために62.5°C 30分の低温殺菌(holder pasteurization)が有効だが臨床現場での実施は難しく、一般的ではない。新たに開発された乾式母乳パック低温殺菌装置 milmo® (北陽電機製)を用い、母乳CMV感染の予防を行った症例を報告する。

#### 【症例】

在胎24週5日、出生体重761gの新生児。臨床的絨毛膜羊膜炎の診断で緊急帝王切開術で出生した。母体のCMV IgM、IgGが陽性で、児の尿中CMV-DNAは陰性だった。生後7時間からドナーミルクまたは母乳で経腸栄養を開始し、以降漸増した。母乳は十分得られており、母乳中CMV-DNAコピー数の測定を行い、母乳中にCMV排出が増加する生後2週から修正32週まで milmo® を用いて低温殺菌処理した母乳を与えた。以降は未処理の母乳を与え、日齢158に退院した。本症例の母乳中CMV-DNAコピー数は生後2週ごろがピークで最大で約42万copies/mLとなり、徐々に減少していた。母乳中CMV-DNAコピー数が2万copies/mL以上でCMV感染のリスクがあるといわれている。本症例は milmo® による低温殺菌処理を行い、後天性CMV感染症を発症しなかった。

#### 【結語】

milmo® は母乳を市販の保存パックに密封したままで簡易的に低温殺菌ができる世界初のデバイスである。milmo® が普及することで、実際の臨床現場において超早産児へのCMV感染を防ぎ安全な栄養管理が可能となる。